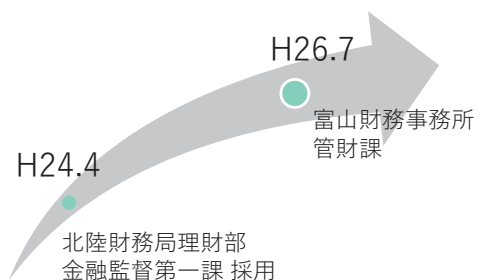




～ 採用から出向まで ～



池邑 綾乃

Ikemura Ayano

財務省出向者より

私は、平成24年に北陸財務局に採用され、3年間勤務をした後、関東財務局での1年間の勤務を経て財務省理財局に出向しました。

私が財務省で経験した国有財産業務及び財政投融资業務について、簡単に紹介させていただきます。

まず、国有財産業務としては、法令の改正や国が新たに庁舎等を取得する際の審査業務を経験してきました。国有財産業務は財務局でも担当していたため、その時の経験も活かしながら、日々、財務局や各省各庁と連絡を取り合い仕事を進めました。特に、私は法学部出身のため、所管法令を実際に改正していく過程は非常に興味深く、大学での学びを基に仕事ができたとともに、とても充実感のある仕事でした。

また、財務省ではできないような細やかな調整を財務局で臨機応変にしてもらうなど、出向したことにより、改めて財務局の仕事の大切さや必要性を実感しています。就職活動の際に業務説明会等で聞いた、「地域との架け橋」という財務局の役割をまさに担っているのではないのでしょうか。



▲執務室での様子



▲財務省食堂にて

次に、財政投融资業務としては、農林水産省が所管する政府機関等に関する財政投融资計画の編成や財政投融资分科会の運営業務を経験してきました。直接、財政投融资の融資先機関の職員の方や分科会委員の先生方とやり取りを行うため、国家公務員とは違った目線でのお話を伺うことも多く、特に委員の先生は、専門的な目線に加え国民としての目線でも議論されており、参考になることがたくさんありました。

また、コロナ禍では、国から機関へ融資した資金が、かなり大きな数字として実際の貸出者数や貸出金額として表れているのを見て、自分の仕事が個人や法人の役に立っていることを強く実感しました。

現在は係長として、これまで以上に自分自身で対応策を考え、方針を決定していく機会も増えましたが、上司に相談しやすい環境が整っており、時には同じく出向中の同期や北陸財務局の先輩方を頼りながら仕事をしています。

北陸財務局にて地域密着型で施策を実行していくことも、財務省や金融庁にてこれからの施策を作っていくことも、やることは異なりますが、どちらも日本の未来に繋がる仕事だと思います。

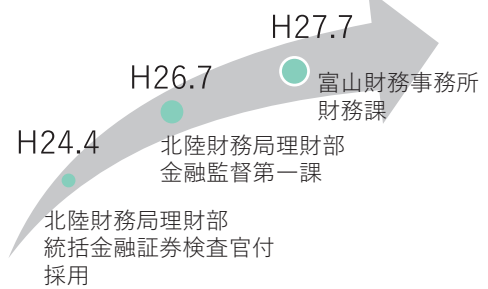
今このパンフレットを見ているあなたが北陸財務局の一員となり、同じ目標へ向かって仕事ができることを楽しみに待っています。



小林 誠

Kobayashi Makoto

～ 採用から出向まで～



金融庁出向者より

私は平成24年に北陸財務局に入局し、金融機関の検査や監督、経済調査といった業務を経験した後、平成28年7月から財務省へ出向し、平成30年7年からは金融庁へ出向しております。

財務局は、本省庁へ出向して全国規模の仕事が経験できる点も大きな魅力だと思います。

ここでは、私が財務省・金融庁に出向してから経験した業務を簡単にご紹介させていただきます。

財務省では地方課という部署に2年間所属し、全国の財務局で新たに発生する業務に対応するための部署の創設、各部署の配置人数の検討などの業務に携わりました。私が地方課に在籍した際には、財務局の新たな業務として、暗号資産（仮想通貨）交換業者や家計簿アプリ提供業者（電子決済等代行業者）への監督業務等が発生していたため、それらに対応するための部署の創設・定員の確保などに取組みました。



▲金融六法は欠かせません



▲テレワークも増えています

その後、金融庁へ異動し、金融機関等と直接やりとりをする、監督局に所属しました。1年目は地域金融企画室という部署で、地域金融機関から融資を受けている民間企業へのアンケート調査等の業務に携わり、2年目は、銀行第一課という部署で、全国規模で展開している銀行・ネット銀行の監督業務などを担当しました。

3年目からは、法令を所管する、企画市場局に所属し、決済・金融サービス仲介法制室という部署で、法令改正作業に携わりました。私が担当していた「資金決済に関する法律」は、商品券、スマホ決済、海外送金サービス、暗号資産など、幅広い金融サービスについて、利用者保護とサービスの促進等を目的として制定された法律です。法令に

は、条文一つ一つに意味があり、内容が少し変わるだけでもサービスを提供する事業者やその利用者などに大きな影響が出るため、非常に責任重大な業務でした。また、法令改正に関する業務は、本省庁で働く国家公務員しかできないもので、とてもやりがいのある業務だと思っております。

4年目の現在は、デジタル・分散型金融企画室という部署に所属が変わり、引き続き「資金決済に関する法律」を担当し、金融のデジタル化に関する有識者会議等の業務に携わっており、日々、新たなことを勉強しております。

上記でご紹介させていただいたのは、本省庁の業務のほんの一部ではありますが、どの業務も、国全体に影響がある業務で、貴重な経験ができたと思っております。

財務局は、本省庁へ出向して経験を積んだ後、財務局に戻ってそれらの経験を生かして働くこともできるなど、柔軟かつ幅広い働き方ができる職場だと思います。